

1. 第 1 学年「ひきざん (2)」

2. 本授業の概要

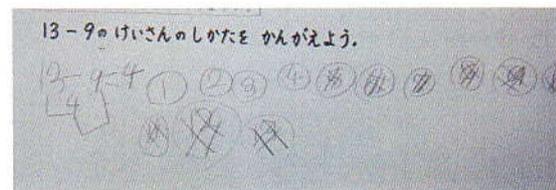
繰り下がりのあるひき算の導入である。計算の仕方は、数え引く方法、減加法(まず 10 のかたまりから引き、その残りとの位をたす)、減減法 (1 の位から引けるだけ引き、残りを 10 の位から引く)、補加法 (引く数は、あといくつで引かれる数になるか) など、いろいろな方法がある。どの方法でもよいので、本時では、どの方法も認めていき、答えは同じだけれども、より簡単な方法を見つけさせていくことをねらった。



3. 実践の振り返り

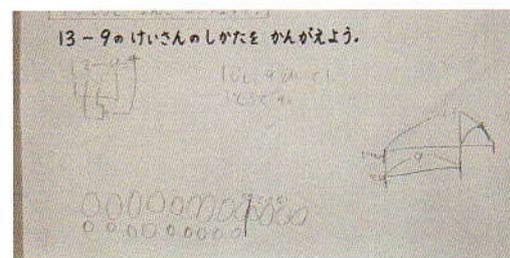
(1) 自力解決の時間

計算の仕方について書く活動が好きな児童も多く、多様な考え方が出てきたが、数え引いて考えた児童が多かった。また、図で表す、というより、問題をそのまま絵で表している児童も多かった。



(2) みんなで考える時間

最初に発言した児童が減加法で分かりやすく説明することができた。それを聞いた児童の多くは、そのよさに気づき、ワークシートには別の方法で書いていても、前に出て発表するときには減加法で説明する、ということが続いた。1 年生にとって、多様な考え方を知るといふより、よりよい方法を知ったら、それを使いたい、という方が、自然な思考の流れであった。



4. 指導講評 講師：笠井 健一 先生

- ・ 自力解決の時間は短くして、全体で確認する時間を長くとり、その方法を使って他の問題に取り組むような流れにした方が、自力解決が難しい児童にとっても、できる児童にとってもよかった。
- ・ 友だちの考えををしっかり聴かせるためにも、黒板での説明を聞いた後すぐに、自分の手元で数図ブロックを用いて同じ操作をさせるなどするとよい。
- ・ 発達段階から考えると、いろいろな方法で、繰り返し同じことをさせる工夫が必要であった。
- ・ 1 年生だからこそ、自由度を減らし、ブロックの基本的な操作を徹底したり、図の表し方も効率のよいかき方を教えたりする必要がある。

